

自 己 評 価 計 画 書

石川県立富来高等学校

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 中高一貫教育の実績を活かした地域理解教育・国際理解教育の充実	① 中高合同で地引網や海岸清掃をすることで、地域の産業や環境について学び、豊かな心と郷土愛を育む。	中高交流 総務 学年団	最終年度となり、中高一貫行事をこれまでどおり実施するとともに、行事の精選を図る必要がある。	【満足度指標】 中高一貫行事に参加し、楽しく取り組むことができた。	A とても楽しかった。 B ある程度楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D 楽しくなかった。	A + B が 70%以下の場合 再検討	行事後 生徒アンケート調査
			『地域に根ざした高校』を特色として、生徒の地域への関心は低くはないが、さらに高めたい。	【満足度指数】 各種の活動を通じて、地域への理解度が高まった。	A とても高まった。 B ある程度高まった。 C あまり高まらなかった。 D 高まらなかった。	A + B が 70%以下の場合 再検討	行事後 生徒アンケート調査
	② 国際理解講演会を実施し、中学生との交流を図り、国際理解を深める。	中高交流 総務 学年団 英語科	国際理解講演会は本校の特色であり、昨年はJICAの職員を講師に呼び、世界の文化や現状を学んだ。	【満足度指数】 国際理解講演を聞き、国際理解が深まった。	A とても深まった。 B ある程度深まった。 C あまり深まらなかった。 D 分からなかった。	A + B が 70%以下の場合 再検討	講演会后 生徒アンケート調査
2 6年間を見通した中高連携最終生徒の希望進路の実現	① 自分の将来を見据え、最後の高校生活の生活設計をする力を養う。	教務 学年団 担任	日常での学習習慣が身につけていない生徒が多く、計画を立てて学習する生徒が少ない。	【成果指数】 定期考査や進路達成に向けた計画が立てられ、学習ができる。	計画した学習が A 70%以上達成できた B 60%以上達成できた。 C 50%以上達成できた。 D 50%未満である。	60%未満の場合 指導方法を 再検討	年間2回 生徒アンケート調査
	② 生徒の適性や希望に応じた進路指導を行い、正しい進路の選択とその実現を図る。	進路 学年団	近年国公立大学への進学を考える生徒が増えてきている。また、今年度は就職を希望している生徒が例年になく多く、現在の社会の厳しい経済状況の中では、かなり難しいものがある。ただ家庭的な事情も勘案すると就職から進学に切り替えることは、相当難しい。	【成果指数】 進路志望調査と実際の進路結果の一致した生徒の割合が	A 90%以上であった。 B 80%以上であった。 C 70%以上であった。 D 70%未満であった。	各クラス単位 でAを目指す。	4月の進路 志望調査と 実際の結果 で判断
	③ 進路実現のための面談指導を充実させる。	進路 担任	進路の実現のためには、担任からの情報提供やより踏み込んだ進路指導が必要とされる。そのため、現状としては、進路指導課は担任に対して丁寧なアドバイスと一定の方向性を示すように心がけている。	【成果指数】 年間に進路指導に関する面談を行った回数	年間、面談を A 5回以上行った。 B 4回行った。 C 3回行った。 D 2回以下であった。	前期評価でD であれば、再 検討し、後期 も含めてAを 目指す。	担任の自己 評価で判断

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 6年間を見通した中高連携最終生徒の希望進路の実現	④ 進路実現のためにより高い資格取得を目指すよう指導する。	進路教科	中学校から取り組んできた中高合同漢字力検定を踏まえ、漢字検定に対する取り組みは、前向きである。その他の英検や危険物取扱者、情報処理等の資格取得にも取り組んでいる。	【成果指数】 個人の資格取得計画を立てて、着実に学習することができた生徒の割合が	A 80%以上であった。 B 70%以上であった。 C 60%以上であった。 D 60%未満であった。	70%未満の場合指導方法を再検討	年間2回生徒アンケート調査
	⑤ 遅刻減・身だしなみ・挨拶など、基本的な生活習慣を確立させ進路実現を側面より支援する。	生徒指導	遅刻や身だしなみも良くなりつつあるがまだ、意識が不足している生徒がいる。	【成果指数】 2年時の各個人の記録を毎月比較して、減るように指導する。増減を一覧色分けし教室掲示する。	A 遅刻が30%減った。 B 遅刻が15%減った。 C 前年と変わらない。 D 遅刻が増えた。	C以下の場合再検討	夏休み前1回目判断 冬休み前2回目判断
				【成果指数】 身だしなみ検査を1回で合格する割合を毎回計算して、増える方向に指導する。	合格する割合が A 前回より20%以上増えた。 B 前回より10%以上増えた。 C 前回と変わらなかった。 D 前回より下がった。		
	⑥ 公共の設備を大切に する心を持ち、環境 美化活動に積極的に 取り組むように指導 する。	保健厚生	生徒は清掃活動にしっかり取り組んでいる。22年度では、さらに少人数での清掃活動となる。	【成果指数】 協力し、清掃活動に取り組んでいる。	協力して清掃活動を A しっかり行っている。 B まあまあ行っている。 C あまり行っていない。 D 全く行っていない。	A + B が 80%未満の場合再検討	年間2回生徒アンケート調査
3 生徒との信頼関係を深めつつ関心・意欲を引き出す授業改善による学力向上	① 各教科で宿題を課し、日常での学習習慣を身につけさせる。	教務 学年団 教科	宿題はするが、自ら課題を見つけて、自主的に家庭学習をする生徒が少ない。	【成果指数】 生徒の家庭学習時間が確保されている。	平日の学習時間が A 2時間以上である。 B 1時間以上である。 C 30分以上である。 D 30分未満である。	A + B が 50%以下の場合再検討	教務課の生活状況調査で判断
	② 教師一人一人が、生徒の関心・意欲を引き出すために授業指導法の工夫・改善を図る。	教務 教科	自主的に学習する生徒は少なく、生徒に興味関心を持たせる授業をすることが必要である。	【努力指数】 生徒の学力向上を考えて指導している。	授業指導法の工夫・改善を A 常に心がけている。 B ある程度心がけている。 C あまり心がけていない。 D 心がけていない。	A + B が 70%以下の場合再検討	年間2回調査
	③ 生徒・教師が共に授業に対する意識を高め、「ベル着」「ベルスタート」を守る。	全教科 教務	「ベル着」「ベルスタート」の意識はあるが、さらに意識を高めたい。	【成果指標】 「ベル着」「ベルスタート」ができています。	「ベル着」「ベルスタート」は A ほぼ100%できている。 B 90%以上できている。 C 80%以上できている。 D 80%未満である。	C以下の場合再検討	年間2回調査

重 点 目 標	具 体 的 取 組	主 担 当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 生徒との信頼関係を深めつつ関心・意欲を引き出す授業改善による学力向上	④ 朝読書に図書館を利用するだけでなく、生涯にわたる習慣として読書を定着させるように取り組む。	図書情報国語科	朝読書の習慣が身についているが、今年度も引き続き朝読書の時間を大切にしたい。	【成果指標】 図書の貸出冊数や貸出人数が増加している。	一人平均、各学期で A 10冊以上利用している。 B 7冊以上利用している。 C 5冊以上利用している。 D 5冊未満である。	C以下の場合 再検討	図書情報課の貸出調査で判断
4 部活動の充実、特別教育活動の活性化等を通じた地域との連携	① 部活動に毎日顧問が顔を出すように取り組む。	部顧問	各顧問はこれまでも生徒とのコミュニケーションをとって指導しているが、場合により、指示だけに終わることもある。	【努力指標】 顧問として、毎日部活動に顔を出し、指導する。	部活に毎日顔を出すことは A 80%以上できた。 B 70%以上できた。 C 60%以上できた。 D 60%未満であった。	70%未満の場合 再検討	総体・総文等が終了した時点での判断
	② 学校全体で環境保全活動に取り組む。	保健厚生環境 ISO	ゴミ分別の意識は非常に高まったが、環境保全という意識が高まっている様子ではない。	【成果指標】 環境保全に対し、理解して意識を持って活動に取り組める。	節電、節水、ゴミ分別の環境保全活動を理解し実行できた。 A よくできた。 B まあまあできた。 C あまりできない。 D まったくできない。	A + B が 70 % 以下 の場合再検討	年間 2 回 生徒アンケート調査
	③ 花いっぱい運動に P T A と生徒会が連携して、組織的に取り組み、花の世話を通じて豊かな心を育む。	総務	P T A の環境・美化委員と、その子供たちが中心となって、取り組んでいた。	【成果指標】 花の世話をする生徒の数が増加している。	花の世話ができた生徒の割合が A 50%以上であった。 B 40%以上であった。 C 30%以上であった。 D 30%未満であった。	C以下の場合 再検討	年間 2 回 生徒の参加者数で判断
	④ 交流のある保育園児や高齢者の方に憩いのひとときを提供し、他人を思いやる心を育む。	総務 家庭科	授業時間を中心に、保育園や福祉施設等と交流を持っている。	【成果指標】 生徒がそれぞれの活動に参加して、その意義を感じることができる。	A 十分感じることはできた。 B ある程度できた。 C あまりできなかった。 D 全くできなかった。	A + B が 70 % 以下 の場合再検討	年間 2 回 生徒アンケート調査
	⑤ ボランティアの意義について考え、具体的な活動を行う。	生徒会 総務	これまでの活動実績を踏まえ、実践活動に取り組む。本年度県の指定を受けている。	【成果指標】 生徒がボランティア活動の意義を理解し、積極的に実践活動に取り組んでいる。	A 積極的に取り組んでいる。 B ある程度積極的である。 C あまり積極的ではない。 D 全く積極的ではない。	A + B が 70 % 以下 の場合再検討	年間 2 回 生徒アンケート調査